

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究  
「高齢者がん患者の看護に関する研究」  
研究分担者 作田裕美 大阪市立大学大学院看護学研究科 教授

研究要旨

- 【目的】 高齢リンパ浮腫患者に対する留意点を探ることを目的とした。
- 【方法】 滋賀医科大学医学部附属病院、東京慈恵会医科大学附属病院、静岡県がんセンター、北福島医療センター、リムズ徳島クリニックの5病院（研究責任者と分担研究者がリンパ浮腫治療を実施している病院）において、リンパ浮腫治療（複合的治療）を行った患者全数を対象に、後ろ向き観察研究（後方視的診療録調査）。
- 【結果】 多施設共同研究「高齢期にあるがん治療後リンパ浮腫患者の留意事項に関する検討」として、5病院のリンパ浮腫患者のデータを収集しているが、COVID-19の感染拡大の襲来に見舞われたことからデータ収集がまだ完了していない。

A. 研究目的

高齢がん患者の診療の一つとして、がん治療の後遺症であるリンパ浮腫診療がある。リンパ浮腫診療ガイドラインは2009年に第1版が出版され、2018年には第3版と版を重ねてはいるが、十分な科学根拠がないとする推奨グレード、証拠不十分とするエビデンスグレード、報告例が希少の推奨度評価なしが多く見受けられる現況である。リンパ浮腫診療ガイドライン内に年齢別に言及したエビデンスがないことから、“リンパ浮腫に対して高齢者に特別な留意点はない”と「高齢者がん医療 Q&A」総論 (<http://jascc.jp/info/1749/> : 2019年5月23日より公開) に記した。現時点ではそう記すはかなかったためである。

そこで本研究では、「高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究（厚労科研：がん対策推進総合研究事業）」の一部として、リンパ浮腫患者の診療の現状と患者状態の特徴を患者の年齢別に把握し、高齢リンパ浮腫患者に対する留意点を探ることを目的とした。

B. 研究方法

滋賀医科大学医学部附属病院、東京慈恵会医科大学附属病院、静岡県がんセンター、北福島医療センター、リムズ徳島クリニックの5病院（研究責任者と分担研究者がリンパ浮腫治療を実施している病院）において、リンパ浮腫治療（複合的治療）を行った患者全数を対象に、後ろ向き観察研究（後方視的診療録調査）。研究代表者の所属施設の倫理審査委員会承認を得た上で、データ収集を行う5病院の倫理委員会審査を受け、データの収集を行っている。

C. 研究結果

研究代表者の所属する大学の倫理審査委員会から承認を得た多施設共同研究「高齢期にあるがん治療後リンパ浮腫患者の留意事項に関する検討」

を、データ収集する5病院の倫理審査にかけ承認を得たうえでデータ収集を行っている。データ収集施設の倫理委員会審査時期に COVID-19 の感染拡大の襲来に見舞われたことから、予想をはるかに超える時間がかかり、当初の予定から大幅に遅れ、データ収集がまだ完了していない。

D. 考察

リンパ浮腫関連情報もさることながら、年齢、家族構成、社会的役割、ADL、認知機能評価結果、キーパーソンや支援者という患者の基本情報が、リンパ浮腫治療や経過に影響していることが予測される。データ収集が完了次第、研究結果をもとに、高齢期にあるリンパ浮腫患者の特徴や留意事項を導き出す予定である。

E. 結論

データ収集を急ぎ、結果をまとめて公表を行う。

G. 研究発表

<その他>

●Masato Yoshihara, Ryoko Shimono, Satoko Tsuru, Kaoru Kitamura, Hiromi Sakuda, Hidenori Oguchi, Akio Hirota (2020) : Risk factors for late-onset lower limb lymphedema after gynecological cancer treatment: A multi-institutional retrospective study, *European Journal of Surgical Oncology*, 46(7), 1334-1338.